

# EMC事業通信(号外)

2016年6月30日発行

(期末最後まででのデータや、出来事も入れたので、発行が遅くなり、申し訳ありませんでした)

2015-16年度EMC事業主任

小野 <sup>とくに</sup>勲(六甲部西宮クラブ)



▽EMCはCME! クラブの意識高揚(C)を図り、楽しく充実した例会に仲間をお招きしましょう。そしてM1(増員計画)とM2(ドロップ阻止)に工夫を図りましょう。  
▽2022年のウィズ100周年に向けて、計画的な増員を図りましょう。  
Y'S MEN' WINDOWS 100 (→2022)

1年間のEMC事業へのご支援、ご協力ありがとうございました!  
今後とも「部EMC推進チーム」を中心に、長期的継続的なEMC活動を盛り上げていきましょう。1人が1人を連れてくるウィズ!

## 【今月の目次】

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| 1. 入会式の窓             | 4. 「EMCの窓辺(WINDOWS)でちょっとブレイク」 |
| 2. EMCの窓・新規チャーターニュース | 5. 「EMC事業主任の大きな一人言-4」(編集後記)   |
| 3. EMCシンポジジウムの実施報告   | 6. 部別・月別会員増減リスト(2015-16年度)    |

## 1. 入会式の窓-2

### 1. 大阪堺クラブ・松下裕恵さん

10月8日(木)・松下裕恵さんをお迎えしました。松下さんは切り紙作家という芸術家。末永い活躍を期待します。同クラブにはシンガーソングライターの松田美穂さんも在籍されていて、芸術色が強みとなります頼もしいクラブです。(左は宣誓する松下さん)



### 2. 大阪なかのしまクラブ・山佐亜津子さん

10月14日(水)・大阪YMCA語学国際事業部で活躍中の山佐亜津子さんをお迎えした。国際色に強いメンバーを得て、大阪なかのしまクラブは活動に幅が出ることでしょう。(右から2人目)

### 3. 京都ウエストクラブ・林 茂さん、胡内(こうち) 大輔さん

11月26日(木)・京都のライブハウスを借り切って京都ウエストクラブ恒例の「おともだち例会」。メンバーはそれぞれご自分のお友達を同伴することになっていて、クラブではおともだちの総数は何と100人を越えるとはYサ主任の河合さん。その楽しい例会で厳かな入会式。林 茂さん、胡内 大輔さん。胡内さんのおじい様も同クラブのOB。一家そろっての応援団に今後の決意が伺えます。後は皆で踊り弾けていました。(右から林さん、胡内さん)



4. 大阪サウスクラブ・出原 廣太(いづはらこうた)さん

12月1日(火)鉄谷明ワイズがスポンサーで出原廣太さんをお迎えました。以前ワイズに在籍されていたが、お仕事の都合で大阪を離れておられたが、この度、帰阪されて再入会とのことでフレッシュワイズに期待。(左から4人目)

5. 西宮クラブ・河野 彰さん

1月8日(金)西宮クラブ3年ぶりの入会式。河野彰さんは神戸YMCAが主宰する、小豆島の余島キャンプのリーダーOB。スポンサーは山口政紀ワイズ。リーダーOBOGの多い(約80%)西宮にまた仲間が増えた。河野さん、西宮外洋の荒波(?)に耐えて育て下さい。



6. 和歌山紀の川クラブ・向井 貞隆さん

1月9日(土)和歌山紀の川クラブに向井貞隆さんをお迎えした。この日は阪和部の新年例会で連ちゃん。向井さんを全員で迎える。本日ゲストで参加の田中正紀さんも入会の意向。阪和部の入会式が続きますように。(中央)

7. 大阪西クラブ・越智 有一さん、石野 鳥雲(とりうん)さん

大阪西クラブにお二人揃っての入会式。若いワイズを迎えてクラブも少し若帰り。今後中西部の中心となって活躍を期待します。(右から3人目越智さん、4人目石野さん)



8. 神戸学園都市クラブ・檜木 善隆さん(左から2人目)

1月21日(木)神戸学園都市クラブに久々の仲間をお迎えした。スポンサーは丹家ワイズ。檜木さん六甲部に慣れていただき、私たちの仲間として盛り立てて下さい。期待します。

9. 奈良クラブ・市本 貴志さん

2月8日(月)市本貴志さんをお迎えした。奈良クラブは今年からYMCAの保育園での例会保育園での例会ですが、ワインのお話。実際にワインを試飲しながらの例会。同じ西宮でも保育園での例会ですが、西宮ではアルコールはご法度。所変われば・・・と神妙にちよつと香りを戴く。ワインで入会をお祝いした。(左端)



#### 10. 宝塚クラブ・重松えみりさん

2月10日(水)宝塚クラブに青年会員をお迎えした。しかも女性。そしてメインスピーカーでもあった。重松さんは今をさること十勝でのアジア地域大会の折、ユースリーダーとしても奉仕された経歴。女性が多い宝塚にまた期待の星の入会です。(中央)

#### 11. 福山クラブ・小松 邑司さん、上久保 美智子さん

2月23日(火)福山クラブに広島から小松さん、上久保さんをお迎えした。小松さんは広島でも活躍されていたが、暫く広島から離れておられた。メネットのご逝去でお一人になり再び福山に移してのワイズの仲間となられた。上久保さんはメンの体調不良のためこの日は欠席。



#### 12. 京都ウエルクラブ・堤 紀也さん

3月1日(火)京都ウエルクラブに堤 紀也さんをお迎えした。実は10人を切った小規模なクラブは各部に1、2クラブあり多くは会員数の減少から深刻な状況が多く、以前からこのクラブには関心があった。夫婦が1組で、今回の堤さんはその中村典子ウィメンの従兄弟ということで家族的である点は変わらない。しかし、このクラブには明るさ、楽しさがある。何度か京都プリンスクラブとの合同例会で決して小クラブというイメージはない。心の持ちようでも如何様にも変わることが出来るのでしょ。 (中央)

#### 13. 和歌山紀の川クラブ・田中 正紀さん

4月1日(金)は1月の向井さんの入会式にも立ち合わせ、お約束の田中正紀さんの入会式。このクラブは皆で入会をお祝いし歓迎するセレモニーには暖かさを感じます。よき習慣でしょう。その方にとってはたった1回の入会式ですから大切に歓迎したいものです。(左)



#### 14. 京都ウエスクラブ・飯野 正樹さん

4月28日(木)京都ウエスクラブは今期2度目の入会式。スポンサーは桂ワイズで、保険会社勤務で転勤が多いので一時の活動とのことですが、ワイズは日本国内、世界に広がっているため、転勤しても転会出来ます。グローバルに活躍していただきたいものです。(右)

#### 15. 大阪センテニアルクラブ・角地 正直さん、木下 順子さん

今期殿(しんがり)にお招きの入会式は5月18日の大阪センテニアルクラブの角地さんと木下さん。メネットと将来のワイズメン候補(コメット)と一緒に入会式に臨まれた。新メンバーの角地さんはテノール歌手で、1月の中西部ファミリーコンサートでも歌われた。

※今後とも多くのお仲間の入会がありますようお祈りいたします。  
紙面でご紹介したのは入会式にお招きいただいた、ほんの一部ですが、今期西日本区では連絡主事の異動も含めて6月末で90名(前年度109名)の新人ワイズが誕生いたしました。



## 2. EMCの窓(WINDOWS)

### 新期チャーターニュース



## 北京都フロンティアワイズメンズクラブ」チャーターに向けて設立総会開催

2016年6月19日(日)11時より、舞鶴市のホテルマーレにおいて、北京都フロンティアワイズメンズクラブの設立総会が華々しく開催されました。1年以上前から、京都YMCA舞鶴福祉専門学院の開校に併せて、京都トップスクラブの船木設立委員長はじめ多くの委員さんたちが、力を合せて設立総会までこぎつけられた。

この日は朝から雨模様であったが、会場は若いクラブの誕生に熱気に包まれていた。紅一点の小原舞さんは、丁度1年ほど前に私(小野)の大学の同窓会が京都で開催されたときに、名刺交換したところ、舞鶴市選出の府議会議員さんだとのこと。思い出すのは同じ民進党参議院議員の福山哲朗さん(京都めいぷるクラブ)。福山さんのお話をしましたら、早速連絡してみますということで、舞鶴福祉専門学院の方に連絡いただき、その後準備に加わっていただいたとのことでした。設立総会でもお話があったように、目下紅一点ですが、今後女性メンバーを増やしていただきたいものです。初代会長の堤さんたちは第19回西日本区大会にも見えておられました。チャーターナイトは、次期京都部会の9月11日に併せて開催されます。皆様大勢で門出をお祝いいたしましょう。

### ★新クラブチャーターニュース

びわこ部:「高島クラブ(仮称)」びわこ部では琵琶湖の東岸にクラブが集中していますが、長浜クラブが中心となって、この度西岸に新しいクラブの設立が準備されている。琵琶湖ネックレス構想から久しいが、ワイズにおける「琵琶湖ネックレス構想」を狙うものだそうです。

九州部:「熊本水前寺クラブ」熊本にしクラブの岩本次期理事を中心に設立が準備されている。このクラブも次期の可能性は大とのこと。水前寺公園を思わせる美しいクラブが楽しみです。ただし、4月に起こった熊本・大分地震の影響でその進捗にも影響が出ることが予想されます。多くの皆様のご尽力が震災復興に合せて期待されるものです。

☆全ての部において、新クラブチャーターが望まれるものです。新クラブチャーターの情報が各部においてありましたら、EMC事業委員会までお知らせ下さい。出来る限りのご支援をさせていただきます。また、EMC事業についてお困りのことがありましたら、ご相談下さい。

### 3. 各部EMCシンポジウム開催

#### 中西部EMCシンポジウム

西日本区EMCシンポジウムの第4弾は中西部。10月3日(土)16時から大阪YMCA会館9階会議室において開催されました。中西部の8クラブから約40名が参加、掛谷中西部EMC事業主査の司会で進められました。まず奥田中西部部長が挨拶に立ち先日の中西部部会の御礼と、今期のEMC事業に当り、各クラブ各1名で中西部9名の増員のお願いがありました。続いて私EMC事業主任の講演というより、皆様へのご協力をお願いをしました。配布資料は主にHPにデータバンクとしてアップされている資料で、10年間の推移では中西部の減少が著しいので、ここは皆様メンバー全員が一人づつお連れいただきたいお願いをした。特に高齢化が顕著なので、「若返り」と「青年会員獲得」は必至事項。更に「女性会員」の増員で活性化が望まれる点をお願いした。

その後、各クラブ会長(代行を含む)より、各クラブの実情が報告された。掛谷主査からは、ゲストスピーカーバンクの蓄積のお願いがあった。その後、アンケートが実施され、目標、目標達成の工夫や課題、原因、要望事項などについてコメントが発表された。

続いて工藤部EMC推進チーム委員長よりチームメンバー紹介と今期の決意が報告された。奥田中西部部長からは、とにかく9クラブが1名づつ増員すれば9名の増員になる。各クラブ1名の増員のお願いがあった。推進チームからは、「各クラブ会長・EMC担当者への提案」として、・確認事項、・前提条件、意識の共有、・体制作り、・環境作り、・ドロップ防止策などのお願いの資料と「ゲストスピーカー登録用紙」が配布された。

最後に西野次期中西部部長(大阪高槻)より、閉会のご挨拶でシンポジウムを終えました。終了後近く中華料理店「徐園」において懇親会が持たれました。



#### 西中国部EMCシンポジウム

西中国部のEMCシンポジウムは、11月14日ー15日、コンフォレスト広島(旧みのち学荘)で1泊2泊で開催された西中国部部会に併せて持たれた。最初に事業主任から用意された資料について、今期の主題、目標やデータを中心にお話をした。その後各部、各クラブがアットランダムにグループに分かれて、主としてドロップ対策を中心に話合われた。混合グループの意見のぶつけ合いは思いがけないアイデアの宝庫となり、興味深い内容であった。最後に各グループから話合われた課題が発表され1時間位で閉会した。山藤次期EMC事業主任もご一緒に参加された。



### 阪和部EMCシンポジウム

阪和部EMCシンポジウムは11月21日(土)南大阪YMCAの会議室において開催された。各クラブから1, 2名(会長、EMC委員)の出席でした。最初に他の部と同様に、資料に基づいて今期の主題、目標値やデータに基づいてお話をした。特にY's Men's Windows 100(→2022)構想を説明した。これはワイズ100周年の2022年には、100クラブ+2022名に押し上げようと以降層で、そのためには7年で17クラブの新規チャーター、472名の増員が必要である。それには毎年2~3クラブのチャーター、70名の増員が必要阪和部においては、年間6名の増員。それは8クラブに当てはめれば、各クラブ1名でいいことになる。しかし、ドロップというマイナス要素もあるので、その倍12名の増員。クラブでは1. 5人の増員となる。また、現在のクラブにはそれぞれ体力差があるので、体力に合った増員が望まれる。例えば大阪サウスクラブや奈良クラブでは毎年2名の増員。しかし、大阪堺クラブや大阪長野クラブでは3~4年で1名増員でよいとなる。しかし、これは着実に実施していかなければ達成出来ないものである。

その後、各クラブの問題点や現状を各クラブ会長から報告されて閉幕となった。山藤次期EMC事業主任も一緒に参加された。

### 中部EMCシンポジウム

中部EMCシンポジウムは11月28日(土)名古屋南山YMCAにおいて開催された。中部では各クラブ会長とEMC委員が中心となって出席。最初に他の部と同様に、今期の主題、目標、各種データを中心に説明会をもち、それぞれのクラブの問題点や現状を話し合うものであった。特に中部においては前期において、名古屋ブラザクラブが解散しており、大幅な縮小が気になる。増員は少なくとも小人数でも充実した活動を継続出来ているクラブもあり、それはそれで評価されるとの報告もあった。

ただ、一時150名近くあった今期中部は100を切っている。まずは100の回復が至上命題でしょうか。Y's Men's Windows 100(→2022)についても説明したが、ご理解いただけでしょうか。これはクラブがもっている体力にあった地道み重ねをして行こうというもので、ワイズメン1人1人が実行していかなければ達成出来ないものである。シンポジウムには山藤次期EMC事業主任も参加された。

終了後、この日はYYYフォーラムと第1回名古屋YMCA大会(懇親会を含む)にも併せ開催されていたので、せっくなので併せて参加させていただいた。



### びわこ部EMCシンポジウム

びわこ部EMCシンポジウムは、12月13日彦根市勤労福祉会館で開催された。各クラブから会長、EMC委員中心での参加。まず他の部と同じように、今期の主題、目標、各種データを中心に話を進めた。Y's Men's Windows 100(→2022)についても説明した。びわこ部では大津クラブが前

期に解散しており、他のクラブも落ち込みも著しい。退会動機の調査などは今後精査しなければならないだろう。各クラブから現状の報告があったが、具体的な対策は出てこなかった。新規チャーターニュースについても具体的な進捗状況は不明。長浜クラブが中心になって進めているとのこと。山藤次期EMC事業主任も一緒に参加された。



### 京都部EMCシンポジウム

京都部EMCシンポジウムは2月6日(土)京都駅前のキャンパスプラザで開催された。京都部は18クラブと多いので、各クラブから会長もしくはEMC委員の1名が参加。他の部と同様に、今期の方針、主題、目標に併せて各種データを交えてお話ししました。ただ、時期が既に後半を過ぎた時期なので、残された時間は少なくなっている。後半は各クラブからの報告と現状、問題点などが順次報告された。今期の京都部はドロップが多く、課題はまだまだ多いようでした。終了後、近くで懇親会が持たれた。



#### 4. EMCの窓辺

##### — EMCの窓辺— (WINDOWS) でちょっとブレイク

今期のEMC活動は基本的には全員参加の活動にしたいと思い、全ての皆様のノウハウを惜しみなくご披露いただき、そのご経験や足跡を共有していきたいと思いました。EMC事業に対して経験豊富なワイズメンにヒストリーを語っていただき、全員で共有したいと思っています。

- ① 大岩 英人ワイズ(京都部 京都グローバルクラブ) 事業通信第1号に既報
- ② 森本 榮三ワイズ(中西部 大阪高槻クラブ) 事業通信第2号に既報
- ③ 菅 正康ワイズ(九州部 熊本ひがしクラブ) 事業通信第3号に既報

※掲載が遅くなりまして、申し訳ありませんでした。





#### ④ わがクラブのEMC活動

阪和部

阪和部大阪泉北クラブ

松野五郎ワイズ

遠藤通寛会員の次々期理事就任を告げられた時、我々泉北クラブ員には驚きであった。いずれは理事就任はあると予想はしていたが、それは我々の予想を超えたものであった。会員増を行いホームクラブとして、理事を支えるべく、さっそく役員会に諮り①最低7名のクラブ会員増と、②例会場を安定した所に変更する事を決めた。当時の会場ジバシン(堺市内)は事前申し込み方式のために思うような会場が与えられない事もあり、また泉北地区の会員よりも大阪地域の会員が増え、新しい会員を誘うのにも、西日本区の役員各位に来て頂くのにも、ジバシンでは遠すぎるきらいもあり、天王寺にある大阪南YMCAに目星をつけた。

大阪南YMCAと言えば同じ阪和部大阪サウスクラブの牙城である。まずは大阪サウスクラブの了解を得ることが先決を考え、当時の山田会長と共に大阪サウスクラブの役員会に伺い、諸般の事情を説明し、お願いをしたところ「どうぞ、どうぞ一緒にやりましょう」と快諾を得ました。そこで大阪南YMCAの矢島様にも同様の事情を述べお願いしたところ「木曜日の夜は空いているので、どうぞ」と言うことで会場問題は解決を見ました。

さて会員増については、各メンバーが努力することになり、私自身も過去に6名の方々に入会してもらった経験もあることから、今回も6名増の目標を課した。会員を勧誘するには、とにかく入ってもらえばと考えがちですが、之はとんでもない間違いで、要は会員になってもらう人が、入会后、入会して良かったと思ってくれる事が一番なのです。そのため、知人友人の中で入会后他のワイズメンとの交わりの中に付き合いが広がって欲しいと思える性格の温厚な人を選ぶことでしょう。会員勧誘はいわば祈りのようなものです。これを自身にも説得し、相手様にも説得する事なのです。

今回の私の目標は6名としましたが、4名で終わりました、いずれの方々にもこれからの人生で、ワイズメンズクラブには入って良かったと思ってくれるものと信じています。さあ、今から、泉北クラブ員一同で遠藤理事をサポートしましょう。  
(阪和部泉北クラブ副会長)



#### ⑤EMC 活性化への視点

六甲部

六甲部神戸ポートクラブ

水野雄二ワイズ

私が所属する神戸ポートワイズメンズクラブには、この3~5年に30代のメンバーが3名入会された。彼らは元々神戸 YMCA の国際ボランティアとして活動していたが、神戸 YMCA の国際活動を支援することをその活動のミッションとしている神戸ポートクラブへの連帯感と関心からワイズメンとなられた。若い人がワイズメンとなるにはいくつかのハードルがある。会費負担の問題、仕事の多忙さの問題、他メンバーとの年齢ギャップの問題など、いくつかのハンディが存在する。これらを特別優遇や配慮によって改善することはある程度必要なことであり、可能なことだと思われる。しかし、もっとも重要なことは、例会そのもの、またワイズ活動そのものが若者にとって「楽しい」と感じられるものであるかどうかであろう。この「実感」を相互に確認しながら、若者を迎え入れる工夫と努力ができれば、ワイズは若者にとっても遠い存在ではないと思われる。YMCAで活動する多くのボランティアリーダーへのアプローチはもっとできるのではないだろうか。

この7月に神戸ポートクラブに神戸 YMCA 総主事の井上真二さんが入会された。前総主事である私(水野)と同じクラブへの入会であった。神戸 YMCA の総主事は誰もポートに入会するかというとそれは必ずしもそうではなく、前々総主事の山口徹さんは神戸クラブであり、その前の

古谷武雄さんも神戸クラブであった。いずれにしても三宮会館に連絡事務所を構えるクラブへの入会が便利で活動しやすいと考えたからである。総主事以外にも六甲部の各クラブには連絡主事があり、またスタッフメンバーとして入会している YMCA のスタッフも多い。

私は総主事時代にはできるだけ若いスタッフもワイズメンとして活動の体験をすることが好ましいと人事的配慮をしてきたつもりである。つまりワイズメンズクラブは YMCA への奉仕団体だとしても、YMCA に働くスタッフがワイズの奉仕を当然のように受け止めてもらっては困るからである。共に考え、共に汗を流し、共に働いてこそ、ワイズメンズクラブの活動の意味と価値が理解でき、YMCA への奉仕を感謝し、共に YMCA の理想に向かっていくことができるからである。ワイズメンズクラブの側からも、多くの関わる YMCA スタッフを人手として、あるいは駒として使うのではなく、共に目標に向かって歩む同労として活動していただきたいと願う。それもまた、EMC の一環であろうと思うからである。

このように各 YMCA 総主事ともよく相談しながら、YMCA の若いスタッフをワイズメンズクラブのメンバーとして入会してもらい、YMCA の会員運動の中核であるワイズメンズ運動を体験してもらうことは YMCA にとっても有益であり、ワイズとしても EMC の活性化につながる。更に YMCA スタッフ OB、あるいは YMCA スタッフを中退した人のワイズ入会は基本的な「YMCA 理解、ワイズ理解」のオリエンテーションを必要としないため、大いにアプローチすべき点だと思われる。

(神戸 YMCA 前総主事、神戸ポートクラブ EMC 委員長)

## ⑤ EMC について

中部



名古屋南山クラブ  
都築正和ワイズ

11月に荒川中部部長より「EMC」についての原稿依頼があり、気楽にOKしたものの、私自身  
がドロップメンバーであったため、非常に難しい課題であり悩みながら原稿を書いています。

### YMCA・ワイズメンズクラブとの出会い

今から50年程前、YMCA教育部高校生課に入会。授業の合間にロビーで友人と卓球に興じている時、少年部主事の誘いもあり、親に相談もなく少年部に転部。ごく自然に「聖書」を読み「讚美歌」を歌い大学生リーダーを中心に「例会」を開く。男子校であった私にはとても新清で毎週土曜日の例会が待ち遠しい日々でした。キャンプにスキーにクリスマスに色々な経験が出来、ごく自然にキリスト教系大学に進みリーダーになりました。当時は学生運動が盛んで夜を徹して討論したものでした。色々なプログラムを進めていく中で必ず出てくるのは、「ワイズメンズクラブ」の存在であり、サポートで我々少年部メンバー・リーダーの憧れでもありました。社会人になって程なくして主事のお誘いにより、ワイズの仲間入りをさせていただきました。24歳の時だったと思います。ワイズメンバーになるのに何の抵抗もなく私にとってごくごく自然なことでした。

### 何故ドロップしたのか

営業マンとして就職した私は精力的に仕事をこなし、また20代後半、上司の勧めもあり労働組合の専門部員として組合活動もし、決して器用ではない自分に「仕事」「組合活動」「ワイズ活動」を同時にこなす事が出来ず、やむなく30代半ばでワイズメンズクラブを退会することにしました。

## ワイズメンズクラブに再入会

60歳の定年と同時に会社の経営を任された時、ある国際交流奉仕クラブ2団体からお誘いの話があり数回例会に参加しましたが、何か違和感を感じていた時、「南山ワイズメンズクラブ」からのお誘いがあり、何のためらいもなく例会に参加しました。以前とはYMCAも南山ワイズメンズクラブも様変わり。非常に驚愕しましたが、活動内容は昔のまま、懐かしささえ感じられました。

先述の2団体もそうですが、メンバーの高齢化、減少化は大きな問題となっているようです。南山ワイズメンズクラブは連絡主事を含め、僅か9名のクラブですが、年間を通して「南山ワイズ農園」の運営があります。2015年老若男女、健常者もハンディキャップを持った人も含め200名超の参加者を得ることが出来、嬉しく思っています。ご父母の中に「今後何かお手伝いすることがあれば声かけをしてください」「また是非参加します」との連絡もあるようで感激です。我々の活動が認識され、ごく自然に仲間になっていただければ幸いです。

## EMCにおける問題点

ワイズメンズ活動で忘れていけないのは、YMCAの存在であり、バックボーンにキリスト教があるということです。この両方の存在を忘れると、活動にプログラムに行き詰まりが来て、やがてドロップしてしまうメンバーがでてくると思います。私はキリスト教徒ではありませんが、先述したようにごく自然にYMCAに入会し、ごく自然にワイズメンズクラブに入会しました。昨今YMCAもその成り立ちも知らないで、ワイズに入会するメンバーも多くいると聞きます。本当にそれでよいのかいささか疑問に思っています。

良いプログラムを持つには多くのメンバーが必要です。しかし、南山クラブは年間を通して一貫したプログラムを持っています。僅か9名のクラブですが、単独クラブで200名超の参加者を有する活動をしています。その活動もだんだん認識されてきています。ごく自然に我々の仲間になってくれるように働きをしてゆきます。会員増強は大変重要な問題ですが、一度独自の一貫したプログラムの構築を考えるのも必要だと思います。先述しました2団体の謳い文句は「異業種交流を通してのボランティア活動・経済活動」でした。私にはそれらしく感じて入会をお断りしました。この原稿を書くのに3名の方の「EMC」の記事を拝見しました。どれも立派で感心しました。私は目線を少し落とし、レベルは低いかもしれませんが私なりの考え、思いをまとめてみました。(名古屋南山クラブ会長)



## ⑦学ぶ・実行・心配り

瀬戸山陰部

瀬戸山陰部 岡山クラブ  
三浦 克文ワイズ

今思えば1982年、私が岡山クラブへ蔵知武ワイズのスポンサーにより入会した頃、クラブは存続に相当な危機感をもっていたのだと思います。高齢者が神戸YMCAに支えられた零細なYMCAにもたれながら、実質会員6名で細々とクラブ活動を続けていた状況でした。ワイズはYMCAを支える存在に、そして当時の西部(六甲部・瀬戸山陰部・西中国部)のお荷物にならないようにと祈り、希望を語っていたようでした。やがて3名の新入会者を含め、クラブ全員の綿密な連携より入会候補者クラブ(ワイワイクラブ)との交流が実を結び、1994年度には9名の入会者を獲得することができました。

クラブ活性化に繋がった大きな要因は、ワイズ・YMCAならではの繋がりで、当時、スポンサークラブである神戸クラブの重鎮、多くの先達から熱い思いをこめた叱咤激励をいただいたことです。ワイズ・YMCA運動の基礎から、何を目的として活動し

ているかをよく教えて下さいました。部評議会で思いもしなかった岡山クラブから輪番制により、佐々木宣夫西部部長の輩出が決まった時(実質会員8名)から、当時の大林正治部長(宝塚クラブ)から、心の籠ったご指導・激励をいただき、度々例会に出席され、新入会員を心から喜んでくださいました。大林部長のご指導に感謝し、部長の働きの大切さを学ばせていただきました。

そして、会員23名になった1995年、阪神・淡路大震災救援・復興支援活動ではクラブの総力を上げて佐々木宣夫部長を支え、救援物資を集め、毎週のように神戸ヘトラックで搬送できるクラブに成長し、佐々木宣夫初代西日本区理事のホストを担うことができました。その頃には、新入会員がまた新会員候補を例会に誘ってきて下さるクラブになっていました。スポンサーになることは新会員を支え、クラブ・YMCA活動を理解していただき、ドロップしないようにする責任があり、心配りが必要です。これはお互いの成長に繋がります。出来るだけ多くのメンバーにスポンサーになっていただくことが、クラブ活性化に繋がります。

このような経験から学んだことは、

- ・ワイズ・YMCAを愛する心が優しさや平和を生み、例会を和やかにする。
- ・ワイズ・YMCA運動の使命、目的を忘れないようにする。
- ・会員増強への取り組みはクラブの結束・連携が必要。
- ・クラブの活性化・会員増強は「井の中の蛙」ではできません。
- ・他のクラブや部会・区大会などに出かけ、良い所を学ぶ姿勢が大切。
- ・人の教えは心を開いて聞く。注意を受けても謙虚な心で受け止める。

(1997年7月1日 初代佐々木宣夫西日本区理事期事務局長、現区報編集委員長)

## ⑧HOP, STEP & JUMP 入会作戦

中西部



大阪センテニアル クラブ  
山中 秀男ワイズ

Y'sメンズの会員減少が叫ばれて久しいが、世界中ロータリー、ライオンズ

を始め、どのサ

ービスクラブも同じ現象で頭を抱えている。景気動向と目標と行動が中途半端な事が要因をなしているのではないか。会員獲得の為、知人、友人に当たるアナログ的な方法からマーケティング的経営手法まで色々試みられている。

後者の手法を紹介しよう。十数年前 Y's国際大会が、オーストラリアのシドニーで開かれた折、フォーラムの一つに、この手法が議論された。リーダーはこの地の公認会計士でコンサルタントも営む、Y'sメンであったが、先ずクラブがやるべき奉仕活動のテーマを明確にする、これに合わせて必要な人材に声を掛け、仲間に入れる趣旨であった。一例として“青少年の健康増進”を掲げた場合、医者、栄養士、屋内外のスポーツインストラクター、ハードな施設が提供出来るサポーター、スポーツクラブ、下部組織の主幹者ETCが挙がり、彼らにアプローチすることがポイントだと云う趣旨であった。フォーラムのテーマとしては興味を引いたが、いざ実践する場合、有料のスポーツクラブと何処が違うのか、侃侃諤諤の議論になった様に多くの賛成は得られなかった。

当時は 東京Y's の会長をしていたので、帰国してから改めて我がクラブで、青年会員を増やすにはどうするか議論した。出た結論はYMCAリーダーを対象に勧誘し、会費入会金を半額にしようで実施したが、然したる効果はなかった。

旬日を経て 転勤で再度、大阪に戻り大阪センテニアルに再入会、三度目の会長をした。チャーター時と2年目連続して会長をした時の会員数は30数名居たが 20名かつかつになつていた。会員増強は待ったなし。第一に取り組むべき課題になつていた。

新年度に先立って、会員全員で行う一日掛けてのKICK・OFF MEETINGで徹底討論した。吉川英治の言葉ではないが“吾以外 皆師なり”人間誰しも、特技と才能を持つてるものだ、目指す青年の中に、其れを見出し、例会の卓話をして頂こう、前一ヶ月は準備期間 HOP、雰囲気慣れ、卓話の要領を掴んで貰う、本番を済ませ STEP期間、3か月目に入会を決断していただくJUMP だ。

幸い大阪では、MBA大学院教授をしていたので、奉仕活動に関心の有りそうな若者に声を掛け、JICAから ODA資金有効活用の審査団の団長を命ぜられ、タイをチェンマイからバンコック迄旅行した時のメンバーに声を掛け、5名の青年会員の入会に漕ぎつけた。条件に恵まれたから、成功したので一蹴することなく、身の周りの状況を生かして、HOP, STEP & JUMP が参考にして頂ければ幸いです。

(クラブ20周年記念例会実行委員長、クラブEMC委員)



### ⑨EMC事業主査のお役目を終えて

京都部

#### 京都部ウイングクラブ

山岸 裕明

京都部 EMC 主査と言う大役を仰せつかり1年が終わろうとしています。EMC に関して私の様な実力不足の人間が何とか無事期末を迎えられるのも、小野主任をはじめワイズメンの皆様のご指導やご協力が有ったお陰と感謝致します。そして主査の仕事を通じていろいろな他クラブの方々と意見交換やお知り合いになってワイズの輪が広がり、私自身にとっても有意義な1年になりました。

今期京都部はメンバー数503名でスタートしました。当然の事ながら今期の方針・計画として600名を目指してのメンバー増強とノンドロップを目指してのクラブの活性化と足元の充実を計ろうと言う事でスタート致しました。

京都部の場合は10名以下のクラブから60名以上のクラブまで様々な18クラブが有って同じやり方で EMC を推進する事は非常に難しいところが有りました。しかし各クラブがそれぞれに応じた作戦を立てて頂き努力を重ねて頂いたことには感謝です。ただ少数のクラブは当然の事ながら人数の多い所もそれなりに悩みが深く、いま京都のワイズメンズクラブは微妙な踊り場に居る様に思います。結果既存の18クラブでの5月末現在7名減の496名と成っています。

そして私が今期残念に思うところは20数名の入会者が有るにもかかわらず30名弱の退会者が出ている事です。そして出席率が極端に下っているクラブが有る事です。ノンドロップの大切さを痛感すると同時に各クラブの中身の充実が必要なクラブが多々有るのではないかと思います。

今後ワイズメンズクラブが YMCA と共に活力が有ってメンバー数も含め充実した奉仕クラブとして存在する為に、真剣に考える時期では無いでしょうか。

私は力不足でしたが、京都には新しい息吹として舞鶴の地に北京都フロンティアクラブが6月に設立され上昇気流に乗って次期を迎えます。次期の EMC 活動を心から期待いたします。

(京都部EMC事業主査)



⑩ワイズメンズ活動からボランティアの神髄を  
～チャーターからの軌跡～

九州部

九州部

熊本にしクラブ

町田 由美子ワイズ

チャーター会長である水元裕二メンが高校の先輩で、お誘いを受けて熊本にしクラブにチャーターメンバーとして入会し、早や7年が過ぎました。ボランティアは中学生の時にスポーツ少年団のジュニアリーダーとして小学生のバスケットボール活動のお手伝いをした経験くらいでした。ワイズメンズクラブが国際ボランティア団体であるということを最初に自覚したのはチャーターした年に熊本で西日本区大会が開催され、多くのワイズメンが集い、活動報告やワイズメンの礎である熊本バンドからの歴史を知った時でした。コメントがまだ小さく、対外的な活動にはなかなか参加できませんでしたが、地域奉仕や例会にはコメントの同伴も歓迎され、無理なく、皆さんの温かいサポートのおかげで、これまでワイズメンとしての活動を継続してこれました。

にしクラブのEMC委員となった年の九州部評議会と同日開催されたEMCシンポジウムに出席した折、EMCとは？を深く知ることができ、クラブ内でのEMC例会を運営し、クラブ内へのEMCの周知と活動の方向性を見出し、取り組み、今期は九州部EMC事業主査を務めさせていただきました。

これまでのEMC活動を通して、私が大切にしていることは、入会前から、ワイズメンズ活動について十分お話をし、自分が活動してどういうところが良くて続けているのかを知っておいてもらうこと、入会後は、メンバー全員が温かい声かけ、まなざしで、サポートすること、具体的な目立った活動だけがボランティアではなく、ワイズメンとなってボランティア精神をもって日常生活を送ることで、地域お役にたっているということを伝えることです。

在籍年数の長いメンバーと自分を比べて、自分は何もできていないと、真面目な故に退会されるのは見当違い。わからないなりに一緒に活動していくことで身につくことのほうが多いと思います。仕事が忙しくてなかなか活動できないと悩んでいた時も、先輩ワイズメンから、「できるときにできるしこ」(\*できる範囲でという熊本弁)が継続の秘訣といわれ、今に至ります。

小さかったコメントも二人とも高校生となり、積極的にボランティア活動に参加しています。先日高校の入学式で校長先生が「Think global Act local」と話されました。

いつぞやのIYCでのスローガンと同じで、世界的な視野をもって考え、今自分が在るところで行動することからすべては始まるとコメントとともに再認識した次第です。

最後になりましたが4月14日、16日と立て続けに起こった熊本地震。ワイズメンの方々からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。まだまだ道のりは長いですが一歩ずつ確実に前に進んでいきたいと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

(九州部EMC事業主査)

## EMC事業主任のお役目を終えて思うこと

2015－16年度EMC事業主任 小野 勅紘

今期EMC事業主任を拝命してから、ずっと全員で作り上げるEMC事業を試みてきました。出来るだけ多くのメンバーのヒストリーを語っていただきたくて、全ての部から執筆をお願いいたしました。皆様ご多忙の中、快く貴重な原稿(ヒストリー)をお寄せいただきまして感謝いたします。せっかく、原稿を戴きながら、私自身の仕事を広げてしまい、多忙に感じて充分お答え出来ず掲載が遅くなりましたことは大変申し訳ありませんでした。

EMC事業については、期首より、**長期的継続的な積み重ね(「持続可能な活動」Sustainable Development※)**により、成果に繋がるものだという信念は変わっておりません。今期の成果にはならなくても、いずれ開花することは充分期待されることです。西日本区大会において、遠藤理事が大会で是非、全員で歌いたいと願っておられた、大会テーマソングの「花は咲く」はそのことを物語っているでしょう。今寒くても、今震災に打ち拉がれていても、今会員が少なくても、活動を継続していく限り、いずれは「花は咲く」ことを密かに夢みていくことです。

花の咲かないところには決して実は結びません。種を蒔かないところには花は咲きません。私たちはそのために今日も種を蒔き続けようではありませんか。1年間、結果は必ずしも満足のいくものではなかったかもしれませんが、皆様のご支援により何とか1年間を終えるが出来ました。皆様のご協力、ご支援には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2015－16年度西日本区EMC事業主任 小野 勅紘(とともに)

※[「持続可能な活動」Sustainable Development]:5年前に台湾の宜蘭(イーラン)で開催された第24回アジア地域大会での基調テーマでもありました。)

### 5. EMC事業主任の大きな一言

#### 台風より怖いドロップの嵐の季節がやってきた

私のオフィスのデスクの上には、前日に届いたFAXが置かれています。多くは「会員異動報告書」ですが、最近頼に「退会届」が多くなっています。期末に退会が集中することは元より覚悟はしていましたが、特に多くなってきました。(前期79名、今期既に50名に迫る) 今日6月29日も2枚の「会員異動報告書」が置かれていました。2枚とも「退会届」でした。1枚目を一瞥したところ、よく存知あげている方であったが、ご高齢なので、今までよく頑張られたので止むを得ないのかなと思いつつ、2枚目に目をやるとこれがまたびっくり。その方は今期そのクラブの会長を務められて、つい2、3日前にはバナーを持って舞台上に立っておられた方だから。時計を見ると21時、まだ電話の出来る時間と思った瞬間、私は電話を掛けていた。奥様が出られて、すぐ本人に変わった。「びっくりしたなあ、どうしたの?」とお尋ねすると、「Aさんが退会するというので、思わず私も退会することにした」という。道ずれなのか?「私ももう65歳だし、ワイズは30年間もやってきて、もうそろそろいいのかなあと思っている。年寄がで出しゃばっていたら、若い方が活動しにくいだろうし、若い方に道を譲った方がいいと思った」とのお答えに、思わず「何言ってるの?私は71歳だよ、80を超えても頑張っている方もいるのに」と言ってしまった。

#### 悠々自適の人生とは

仕事をリタイアした後の人生、いわゆる「悠々自適の人生」とはどのような人生を指すのでしょうか。私のように体が動ける内は内容は縮小されますが、依然仕事を継続する方もおられますが、多くの方は勤務などから解放されて、普段出来なかったこと、例えば旅行や趣味に没頭したり、体力改善のためにスポーツクラブに通ったり、家族や孫に囲まれて幸せを満喫したり、また何

もしないで自由に暮らしたり(私の父はこの道でした)、あるいは健康に支障が出て療養に専念されたり、様々な人生があるようです。その中で今までは、会社や家族のために働いてきたが、広く社会に貢献したりする人生もあるでしょう。ワイズもその一つです。

私はこの「悠々」とか「シルバー」とかいう言葉が嫌いです。決して「悠々」ではないからですが、そんな人生は送りたくない。電車でシルバーシートに席を譲られると「ムッ」としてご辞退していた。ある時自分の姿を鏡で見た時愕然とした。若いと思っていたのは自分だけだと気付いてから、素直にご好意を頂戴するようになった。

ワイズに入って14年、自分が「悠々」だと思ったことは一度もない。それはワイズにはたくさんの友人に恵まれていて「悠々」を必要としないからかもしれません。ワイズから離れたら決して「悠々」ではなくなるからかもしれません。「悠々」とは心の持ちようだとも思う。健康上の問題で「一身上の都合」として退会される方も多いようですが、その方には「おと吉(神戸Yの近くのお好み焼屋)でいつでも待っているよ。また声かけてね。1年以内に復活したら入会金免除だからね。」でようやく笑い声が聞けた。反面前日にはちょっと嬉しいことがあった。1年前に退会された方の再入会の届が届いたからで、仕事に目途がついたからだという。その方は全く存じ上げない方ですが、何となく嬉しかった。

### ワイズ人生もそう悪くはないですよ！

私も入会当初はメンバーが何を言っているか分からない時もあり嫌になったり、いつそ辞めてしまおうかと思ったこともないとは言えない。「ブリテンお願いします」と言われて「英国がどうしたの？」と聞いて失笑をかったこともありました。その後入会された方も同じようなことを零しておられた。「皆さんが何を言っているのか分からない」と。「ああ、自分だけではなかったのか」と思った時、新人さんには出来るだけ丁寧に対応してきたつもりだ。しかし、そこにはいつも真剣に私の話を聞いてくれる仲間がいたから救われたのです。人は解決はしなくても、話を聞いてもらえるだけで癒されるものです。その癒しの力がワイズにはあるのです。人は話を聴いてもらってクラブに残るし、クラブから離れようとするときには「話を聴いてもらえなかった」裏返しでもあるのかもしれませんが。人は話を何故聴いてもらえなかったのか、逆に何故話を聴いてもらったのか。実は簡単なことだったのです。

### 聴くこととは(聞くでも、効くでも、利くでも、訊くでもない「聴く」ということ)

それには①「D」の言葉は出来るだけ使わないことです。「でも」とか「だから」「だって」「どうせ」「どうして」などは、相手が受けとめ方に不満を持っているときに出やすい言葉で、否定的な押し付けがあるのです。その代わりに②「ね」を入れると随分受けた時の感じが優しくなります。また③「そう系」の言葉には「あいづち要求シグナル」があります。「そうだね」「そうかあ」「そんなに大変だったんだね」「そう、よかったね」といった言葉は「おもいやりの心」に通じます。また、④「しなくてもいい否定をしない」ことです。例えば、「オバマ大統領は広島に来てよかったね」と友人が言ったとします。それを自身の意見では「なんか宣伝臭い芝居だ」と書いていても、また「そうかなあ？私にはそうは思わないよ」と書いていても、そこはぐっと堪えて、「そうだね、それでよかったのかもしれないね」と返すことにより、次に繋がるのです。そこは決して議論する場ではなく、世間話に終始する場でもあるのです。もっといえば、その前に⑤「あ」を付けてみて下さい。私の永年の親しい友人が時々、「あっ、そうか、それいいね」と言ってくれることを思い出します。彼は癒しの極意を心得ているのでしょう。事実こういった言葉には「共感」の姿勢があり、会話における『あ』の重要性や効用があるようです。

ワイズの日頃の会話にも、心を痛めている人もいますし、たった一言で癒されている人もいます。心にもない言葉には注意したいものです。「聴く」とはその字にあるように、「耳」と「目」に「心」を「+」して、「きく」ことなのです。この場合必ずしも「口」を必要としない「ノンバーバル・アプローチ」もあります。目は口ほどにものにもものを言いともいいます。「見守る」という思いやりもその一つでしょう。私は時々「おやしギャク」を入れて引かれています。

### 何故ドロップなのか、他に方法はないのか？

今期西日本区のEMC事業主任を経験して、随分多くの方が去っていかれました。この傾向は河原直前事業主任も引継ぎの時、力説されていましたが、ドロップの集中は如何ともし難いもの

でしょうか。

3年前に六甲部のEMC事業主査を拝命したおりに、事前に思い切って1年間掛けて「入退会動機」の調査(アンケート)を実施しました。特に退会動機については対象者は既になく、「聞き取り」により多くの情報を得ました。1年間の聞き取り調査で、10年間で181人も退会者の情報を得ました。(匿名扱い)

その時、退会動機の順位は、①多忙、②死亡、③トラブル、不祥事、④活動意欲の減退、意識の違和感(ワイズに対する認識の相異)、⑤高齢、健康上の理由、⑥転勤、転居、⑦家族の介護などでした。意外に「YMCAや宗教上の違和感」、「経済的な理由」などはあまり目立ちませんでした。(あっても「多忙」や「健康上の理由」に隠されているのかもしれませんが…) 六甲部には阪神間のクラブが多いが、阪神大震災の影響も少なかった。

こういった真の動機を明確にすることにより、具体的な対策を講じることが出来るかかもしれないと思いました。「多忙」とか「健康上の理由」などは便利な言葉で、オブラートに包んで奥床しく去っていかれるのです。

人は行動するときに、無意識の内に、**優先順位(Priority)**に従って行動しています。例えば①「仕事上の契約」、②トイレ、③免許更新、④娘の卒業式のアイテムがあったとします、あなたならどれから着手しますか？ とにかく切羽詰まっているなら②トイレ、①「仕事上の契約」、③「免許更新」の順でしょうか。④娘の卒業式は母親に頼んでいるかもしれませんが、しかし、契約は1か月以内に実施すればよくて、免許更新が1週間後に期限が迫っていたり、娘からは懇願されていたらどうでしょうか。順位は逆転するでしょう。この場合他の予定よりワイズの例会の方が魅力的で外すことが出来ないとしたら、順位は入れ変わるのです。「多忙」にはそういう要素が含まれています。この「多忙」に対する対策は、**ワイズの活動、特に例会を他の活動より魅力的にして外せない位置まで高めること**でしょう。自分が会長やドライバーなどの役割を担っていたら、また姿勢も違うでしょう。役割が人を作るともいうことはそういうことでしょう。

今迄何故退会したのか、また「去る者は追わず」で済ませていた行動にもちゃんとした理由があったのです。その理由に向かうことで、どうすれば退会を減らし、入会を増やすことが出来るのかという具体的対策に生かしていけるのです。ただ、高齢とか、介護とか、健康上の理由、死亡などは、事実なら避けることは困難でしょう。しっかり治療して元気になってからまたいらして下さいと言うしかないでしょう。これには**青年会員獲得(40歳以下)**という「**若返り**」が**特効薬**です。しかし困難と思われる「高齢」や「健康上の理由」にも対策はあるのです。それは「**後継者の育成**」です。自身が育成する場合と、組織(クラブ、部、区など)が教育システムを駆使して行う場合があります。後者がかつてのEMC2000推進チームであり、その趣旨を各部にブレークダウンしたのが「**部EMC推進チーム**」でしょう。かつて我が西宮クラブでは当時の会長方針で、YMCAのユースリーダーやそのOBOGを例会に招待して、年会費を食事代に限定して1年間実施したことがありました。その時の連絡主事の案で、決して自クラブのみの対象としなかったことで、他クラブにも紹介し、その内の数名は現在六甲部のメンバーの若手として活躍しています。

企業や政界では後継者育成を殆どの組織において実施していて、これは至上命題でしょう。社員教育はそのためにもあるでしょう。青年会議所OBOGにターゲットを向けているクラブも見受けられます。(青年会議所は40歳迄) そうしなければ組織は生き抜いていけないからでもあるでしょう。悪用されると「派閥」を作ったり、「世襲」といったケースが出てくる場合もあるでしょう。

私は今後は次期は山藤次期主任をサポートして、動機から対策への橋渡しで、そういう縁の下での力持ちに徹したいと思っております。お仕事や健康上の都合が出来ても、ワイズには「**広義会員制度**」があります。また転勤や転居したら「**転会**」ということも可能です。あらゆる機会を利用して継続出来る方法を模索していただきたいのです。メネットがメンになったり、コメントが後を継ぐことは多くの場で実現されています。都合で一度退会しても1年以内に復帰すれば、入会金免除という制度もあります。

**「奉仕」と「親睦」、「研鑽」…「目的」と「手段」…「YMCA理解とは」「ワイズとは」**

最近雑談などで耳にする話ですが、「YMCA支援」への違和感(ワイズがYMCAを支援すると

いった根本的な YMCA 理解や課題)であったり、それを通り越して、YMCAやワイズは除外して、独立した別の「異業種交流団体」を立ち上げようといったびっくりするような話を聞くことがあります。集団退会などがあつたりすると気にもなります。今までも支援していたYMCAがなくなってワイズも解散してしまったという例もあるようです。

話は変わりますが、私が卒業した大学の校歌に“Mastery for Service”という一節があります。「奉仕への錬達」と訳されるこの言葉は、「錬達(研鑽)」が「手段」で、「奉仕」が「目的」である。いわば学生時代は社会に出て、「奉仕(仕事)」をするために「錬達(研鑽)」をしておこうというものです。決して「研鑽」するための「奉仕」ではないのです。従って「研鑽」や「親睦」は「奉仕」という「目的」を達成するための準備「手段」というわけです。「手段」と「目的」が逆転している場合がときとしてあるかもしれません。

「目的」である「奉仕」と、「手段」である「研鑽」や「親睦」の受け止め方、根本的な課題は慎重に考えていきたいものです。多くのクラブではそういったYMCA とワイズとの関係や、活動の有り方は、クラブの特色や得意分野、また傾倒する分野も多岐に亘っていて、一概にどうあるべきかを論じることは困難です。しかし、軸となるYMCA を理解して支援していく、そのための交流であり、研鑽であり、奉仕であるという本質は変わらないでしょう。壁に当たった時、時として私たちはEMCへの行動に繋がっていくのかもしれませんが。そんな時、私たちは少し立ち止まって、YMCAとワイズとの協働が重要な意味を持つということをもう一度考え直す機会を持ちたいものです。YMCA から見てもワイズとの協働を考えた時、人的な交流を踏まえた架け橋として、マンパワーの送り込みも重要でしょうし、YMCA やワイズを運動(Movement)として捉える時、貴重なワイズ体験になるでしょう。

### 北京都に若いメンバーで構成する新しい息吹が誕生

舞鶴に新しいクラブが誕生します。平均年齢40歳という若いフレッシュなクラブ「(仮)北京都フロンティアワイズメンズクラブ」の設立総会が、舞鶴市のホテルマーレにおいて、6月19日(日)に開催されました。チャーターナイトは、来る9月11日(日)京都部部会に先駆けて13時から京都グランドプリンスホテルにおいて持たれます。多くのメンバーでその門出をお祝いしましょう。次の一節は設立総会で21名のフレッシュマンたちに贈った鼻向けの言葉です。

“負けた時が終りなのではない。辞めた時が終りなのである。”

第37代アメリカ大統領 リチャード・ニクソン

(田中角栄首相が日中国交回復を実現出来たのは、その前にニクソン大統領が米中国交回復を成し遂げた後の1972年9月29日のことである。ニクソンなくして田中はなかったと言っても過言ではないでしょう。彼は、ベトナム戦争から完全撤退し、冷戦下のソ連とデタント(緊張緩和)を成し遂げた。その後の東西冷戦の雪解けを導いたとも言えます。そんなニクソンは、アイゼンハウアー大統領の副大統領として後塵に甘んじ、また若いケネディにも敗れた。しかし、彼は諦めなかった。ケネディが凶弾に倒れて、ジョンソンがあとに続いた後に、第37代大統領としてリベンジを果たした。何度敗れても彼は諦めなかった。リベンジは生きている限り何度でも出来る。ただその挑戦を「辞めた」ときこそ本当の“終り”なのだという勇気を教えてくれた人物であったでしょう。しかし、ニクソンはその後ウォーターゲート事件で、ニクソンショックを招き、残念ながら現職のまま退陣しました。)

北京空港に降り立ち、周恩来中国首相と握手するニクソン米大統領  
(1972年2月21日)



# 2015-16年度西日本区会員増減推移リスト

(2016年6月30日現在)

※今期中に「会員異動報告書」を受理した記録に基づいて作成しております。今後、期末の異動が追加される可能性がありますので、数字は変化する場合があります。未報告分は、速やかに2015-16年度事業主任、同部長、同部事業主査、西日本区事務所迄お知らせ下さい。

年月	中部	びわこ部	京都部	阪和部	中西部	六甲部	瀬戸、山陰部	西中国部	九州部	西日本区計 2001年1867名
2014 7.1期首										1,567
2015 3.31末										1,600
2015. 7.1期首	96	116	503	132	136	135	67	74	271	橋渡しし 1,530
2015. 7月 評議会	1	5	-2	4	2	1		2	3	18
	97	121	501	136	138	136		76	273	-3 1,545
8月 納涼例会	1		3	1				1	1	7
	98		-3	137				77	273	-4 1,548
9月 部会			2						2	4
			-1	502					275	-1 1,551
10月 部会	1		5	1	1				1	9
	-1		-2	138	139				-1	-4 1,556
	98		505	138	139				275	
強化月間 11月			2	1					1	4
ゲスト招待			-2							-2
強化月間 12月			505	139					276	橋渡しし 1,558
ゲスト招待			-7	1	1	-1	-1	-2	1	4
強化月間 2016年1月			498	139	137	135	66	76	275	-17 1,545
ゲスト招待			2		2	2		1	1	8
			500		139	137		-1	-1	-2
								76	275	1,551
2月 評議会	1		2	1		1		2	1	8
	99		-6	-1		-1		78	274	-10 1,549
3月 研修会		-2	4	3		1			2	10
		119	-6	-2		-1		-1	-2	-14 1,545
4月 役員会			2	-2	-1	-2		1	2	5
			-2	494	139	137		-1	276	-6 1,544
5月 振返・準備	-1		3	1	1	1			2	8
	98		-1	-1	-1	-1		-1	-1	-6 1,546
			496	138	139			76	277	橋渡しし 1,546
6月 西日本区大会	2	-3	3	-2	-2	-6	-2	-1	-6	5
	97	-11	-13	136	137	131	64	75	271	-46 1,505
増員	6	5	28	12	9	5	0	8	17	90
減員	-5	-13	-45	-8	-8	-9	-3	-7	-17	-115
前年度比	1	-8	-17	4	1	-4	-3	1	0	-25

クリスマスで途切れてしまう!

橋渡し(年越しの重要性) 合同新年会等でゲスト招待 etc.

橋渡し

※12月末、3月末、6月末に退会が集中しやすい。11月-1月の強化月間の対策が望まれる。

※7. 半年報(1,494)との乖離があります。(重複会員、会員異動報告未提出などの理由)